

単数と複数

中学生になって英語の授業で初めて「単数」と「複数」に出会った時、頭の中は濁流が流れ込んだかのように混乱した。それまで「単数」と「複数」なんて想像だになく、意識せずとも普段の生活で不自由を感じることはなかったからだ。授業では普通名詞はすべて単・複数の違いを意識させられ、おまけにそれらが動詞にまで影響をもたらすとは、日本的伝統文化の中に「曖昧さ」を内包する国土に育った少年にとっては一大事だったのである。

昭和25年プロ野球が2リーグに分れ、新たに「広島カープ」が誕生した。「カープ」という言葉が単・複数同じだということも知らず、なぜ広島だけが「カープス」ではないのか、小学生だった少年には不思議でならなかった。

その後「近鉄バファローズ」が、短い期間だったが「近鉄バファロー」とニックネームを変えていた時期があった。英語の母国でも現代日本の「地デジ」「コンビニ」流に、言葉の短縮化や省略化が流行したのかと思いきや、なんと単にスペルが長過ぎるとの無神経な経営者の思いつきだけで、野生動物の群れをたった一頭の絶滅危惧種にしてしまったのである。

「ピンクレディー」が全盛期にアメリカ公演を行った。可愛くて少々お色気のある彼女らのステージは、アメリカでもそこそこの評判を呼んだ。その時アメリカの芸能記者の間では、2人の少女が一緒に歌うグループなのに、なぜ名前が複数の「ピンクレディーズ」ではないのかとの素朴な疑問があった。文法的に単・複数の区別を厳しく教え込まれて育った彼らには、2人で一人前の名前「ピンクレディー」は、まさに晴天の霹靂だったに違いない。

その一方で、近年になって3人の男性プレイヤーが頭からブルーの衣装を身につけ、鉄パイプのような楽器を使って演奏するトリッキーなグループが時々テレビに登場するようになった。その名を「ブルーマン」グループという。英語本場のアメリカからやって来た彼らのグループ名が、複数の「ブルーマン」ではなく、なぜ単数の「ブルーマン」なのか、その理由が未だによく分からない。